

## 令和7年度 貝毒プランクトン出現状況（5月28日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis*属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期5回目となる5月28日の調査では、その他の*Dinophysis*属として、*D. infundibula*と*D. rotundata*、*D. rudgei*が出現しました。

市場流通しているイガイやイワガキは毒量検査が実施されていますが、潮干狩りなどで採ってきた二枚貝は毒が蓄積している場合がありますのでご注意ください。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
①	4/9	5 m	10.1	98		14	
		10m	10.3	27	21	6	
		20m	10.4			3	
②	4/18	5 m	11.0	324	9	24	
		10m	10.9	330	12	15	
		20m	10.7	294	9	6	
③	5/1	5 m	12.1	510	24	24	
		10m	11.6	234	33	21	
		20m	11.2	351	15	12	
④	5/14	5 m	13.0	144	9	24	
		10m	13.0	162	6	24	
		20m	12.6	108	6	33	
⑤	5/28	5 m	15.3	30	3	21	
		10m	14.3	28	4	18	
		20m	13.2	35		21	
⑥		5 m					
		10m					
		20m					
⑦		5 m					
		10m					
		20m					
⑧		5 m					
		10m					
		20m					
⑨		5 m					
		10m					
		20m					
⑩		5 m					
		10m					
		20m					
⑪		5 m					
		10m					
		20m					
⑫		5 m					
		10m					
		20m					

\* 貝毒プランクトンの警戒値は*Dinophysis fortii*については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされています（安本 1993）

\* 下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。